

ユビキタス

(3858・JASDAQ スタダード)

2012 年 10 月 3 日

スマートエナジー分野の取り組みも進展

アップデートレポート

モーニングスター(株)
藤井 知明

主要指標 2012/10/1 現在

株 価	52,900 円
年 初 来 高 値	88,900 円 (12/02/10)
年 初 来 安 値	38,300 円 (12/06/04)
発行済株式数	87,239 株
売 買 単 位	1 株
時 価 総 額	4,614 百万円
予 想 配 当 (会 社)	0.0 円
予 想 E P S (ア ナ リ ス ト)	704.07 円
実 績 P B R	2.21 倍

直前のレポート発行日

ベーシック	2012/07/11
アップデート	2012/03/30

13 年 3 月期 1Q の業績は減収で営業赤字も拡大

13 年 3 月期 1Q (12 年 4~6 月) の非連結業績は、売上高 138 百万円 (前年同期比 9.3%減)、営業損益は 72 百万円の赤字 (前年同期は 25 百万円の赤字) となった。通期業績予想の売上高 1,000 百万円と比べると、1Q の売上高の進捗率は 13.9%となる。1Q は例年低めの進捗率となる傾向があるものの、この水準は会社が想定していた見込みを下回った模様。1Q については、分野別の売上高実績は開示されていないものの、ネットワーク関連の売上高が想定よりも低調だったことが、低い進捗に繋がったようだ。ただ、データベース関連や高速起動関連は計画比でも順調だった模様。ネットワーク関連のうち、ゲーム分野については減収ながら一定の金額を確保しており、1Q の特徴を考慮すると、実態はそれほど悪くなかったと考えられる。

2Q 以降の動向に注目

13 年 3 月期の非連結業績は、売上高 1,000 百万円 (前年比 9.3%増)、営業利益 100 百万円 (同 58.7%増) と会社側では予想している。1Q の進捗率は低く、想定よりも低調だったようだが、通期に占める 1Q の比率は例年小さく、この数字だけで通期を判断すべきではないだろう。会社側では通期計画を修正していないが、モーニングスターでも 13 年 3 月期の非連結業績予想については売上高 1,000 百万円、営業利益 100 百万円と、前回予想を据え置く。2Q 以降はネットワーク分野の売上高拡大が期待されるほか、スマートエナジー・スマートハウス分野の取り組みも進んでおり、サービスプラットフォーム事業の動向にも注目しておきたい。

業 績 動 向			売上高 百万円	前期比 %	営業利益 百万円	前期比 %	経常利益 百万円	前期比 %	当期純利益 百万円	前期比 %	EPS 円
2012/03	1Q(4-6月)	実 績	153	-22.7	-25	赤転	-25	赤転	-12	赤転	-149.59
2013/03	1Q(4-6月)	実 績	138	-9.3	-72	赤転	-71	赤転	-85	赤転	-999.02
2012/03	通 期	実 績	915	-35.7	63	-90.4	64	-90.1	-18	赤転	-217.68
2013/03	通 期	新・会社予想 (2012 年 8 月発表)	2012 年 5 月から変更なし								
		旧・会社予想 (2012 年 5 月発表)	1,000	9.3	100	58.7	100	54.6	60	黒転	704.07
		新・アナリスト予想	2012 年 7 月から変更なし								
		旧・アナリスト予想 (2012 年 7 月発表)	1,000	9.3	100	58.7	100	54.6	60	黒転	704.07
2014/03	通 期	新・アナリスト予想	2012 年 7 月から変更なし								
		旧・アナリスト予想 (2012 年 7 月発表)	1,320	32.0	160	60.0	160	60.0	100	66.7	1,173.45

業 績

13年3月期1Qは 減収で赤字拡大

● 業績解説

13年3月期1Q（12年4～6月）の非連結業績は、売上高138百万円（前年同期比9.3%減）、営業損益は72百万円の赤字（前年同期は25百万円の赤字）となった。形態別の売上高の内訳は下表の通りであり、サポート以外は前年同期比で減収となった。なお、受託開発の減少が目立つが、顧客であるメーカーの予算サイクルの関係上、この売上は上期末の2Qや下期末の4Qに集中する傾向があり、検収のタイミングの問題もあって、売上計上が少なかった。

形態別売上高の内訳		(単位:百万円)	
	12/3・1Q	13/3・1Q	前年同期比増減額
使用許諾	120	116	-3
サポート	12	15	3
受託開発	21	7	-13
合計	153	138	-14
ゲーム	66	55	-11
ゲーム以外	87	83	-4

（会社資料よりモーニングスター作成）

ネットワーク関連の 売上高が想定より も低調

ただ、通期業績予想の売上高1,000百万円と比べると、1Qの売上高の進捗率は13.9%となる。1Qは例年低めの進捗率となる傾向があるものの、この水準は会社が想定していた見込みを下回った模様。1Qについては、分野別の売上高実績は開示されていないものの、ネットワーク関連の売上高が想定よりも低調だったことが、低い進捗に繋がったようだ。なお、通期の会社計画の分野別売上高は下表のようになっており、ネットワークと高速起動を増収のけん引役と想定しているほか、13年3月期より本格的にビジネスを展開するサービスプラットフォーム事業の寄与も見込んでいる。

分野別売上高推移		(単位:百万円)	
	12/3期実績	13/3期会社計画	増減
ゲーム	256	150	-106
ネットワーク	407	470	63
データベース	169	180	11
高速起動	81	150	69
サービスプラットフォーム事業	-	50	50
合計	915	1,000	85

（会社資料よりモーニングスター作成）

分野別の状況は以下の通りである。

◇ネットワーク関連（ゲーム分野）

ゲーム分野については、任天堂の携帯型ゲーム機「ニンテンドーDS」向けにWi-Fi通信機能に係わるソフトウェアを提供することによるソフトウェア使用許諾料（ロイヤルティ）が主力。任天堂が携帯型ゲーム機では新機種である「ニンテンドー3DS」へのシフトを進めていることもあり、当社のゲーム分野の売上高は11年3月期の833百万円が12年3月期には256百万円となるなど、減少傾向にある。

ゲーム分野はポケ
モンの新作発売で
ロイヤルティ計上

もっとも、13年3月期1Qは、売上高55百万円（前年同期比15.4%減）と、減収ながら一定の金額を確保した。任天堂から国内向けで6月23日に発売となった「ポケットモンスター ブラック2・ホワイト2」が、1Qは245万本の販売を記録。このタイトルはニンテンドーDS対応で発売され、当社のソフトウェアが使用されているため、ロイヤルティ収入が計上された。ちなみに、同タイトルの前作である「ポケットモンスター ブラック・ホワイト」は、国内550万本、海外921万本で合計1,471万本の販売実績がある。海外については10月に発売される予定であり、当社の2Qもしくは3Qの売上に寄与する見通し。前作の販売実績から見ると、13年3月期のゲーム分野の売上高予想150百万円は、達成可能な水準と思われる。

◇ネットワーク関連（ネットワーク分野）

1Qのネットワーク分野では、デジタル家電関連の売上が低調だった。家電量販店などで、テレビやブルーレイレコーダーの在庫が膨らみ、メーカーからの出荷台数が減速したため、ロイヤルティ収益が低調となったとしている。無線ネットワーク関連で、デジタルカメラのネットワーク対応に関するロイヤルティ収益の獲得などもあったが、デジタル家電関連の影響が大きかったようで、このネットワーク分野の低調が1Qの進捗率が低かった主因と見られている。

1Qはデジタル家電
関係のロイヤルティ
収益が低調

なお、年末商戦を睨んだ新商品などの受託開発案件は進んでいるものの、1Qの段階で売上計上されるものは少ない。一方、「電力見える化ソリューション」の一環として進めているクラウドサービス「Navi-Ene」は2Qにサービス開始を予定。さらに、著作権保護デジタルコンテンツのインターネット上での視聴を可能にする新規格「DTCP+」に対応したソリューションを、機器メーカーなどに提供開始。通期の売上高は470百万円（前年比15.5%増）を想定しているように、2Q以降は売上高の拡大が期待される。

**データベース関連
は堅調に推移**

◇データベース関連

データベース関連では、デジタルカメラ、カーオーディオ向けなどのロイヤルティ収益が堅調に推移している。特にデジタルカメラでは写真の検索機能などが貢献し、採用機種が拡大するなど、需要は堅調。今後は産業・業務分野の新規顧客開拓を目指している。ただ、通期の売上高は180百万円（前年比6.5%増）と緩やかな伸びを想定しており、計画比でも順調なようだ。

**高速起動関連では
車載機器向け中心
に案件が進行**

◇高速起動関連

高速起動関連では、カーナビなど車載機器向けを中心に、複数のプロジェクトが進行している。ただ、現状は研究開発・商品化に向けた実装作業を継続している段階。これらの車載関連の製品が市場投入され、量産ロイヤルティが獲得できるのは13年3月期末から14年3月期以降になりそうで、現時点での収益寄与は大きくないようだ。

ただ、一方で、1Qは業務用機器で新たな量産出荷があり、ロイヤルティ収益が計上された。この顧客からの案件については、今後も継続的な受注が期待できそうで、当面の収益拡大に寄与しそうだ。通期の売上高は150百万円（前年は81百万円）と想定しているが、1Qはほぼ計画通りだったようだ。

**13年3月期は
増収増益を予想**

●業績予想

13年3月期の非連結業績は、売上高1,000百万円（前年比9.3%増）、営業利益100百万円（同58.7%増）と会社側では予想している。1Qの進捗率は低く、想定よりも低調だったようだが、通期に占める1Qの比率は例年小さく、この数字だけで通期を判断すべきではないだろう。会社側では通期計画を修正していないが、モーニングスターでも13年3月期の非連結業績予想については売上高1,000百万円、営業利益100百万円と、前回予想を据え置く。

**中期経営計画を
策定**

●中期経営計画を策定

一方、会社側では6月に中期経営計画を発表。既存の3分野（ネットワーク・データベース・高速起動）からなる「組込みソフトウェア事業」に加え、「サービスプラットフォーム事業」の収益化を図る事により、14年3月期に売上高1,320百万円、経常利益160百万円、15年3月期に売上高2,000百万円、経常利益520百万円を目指している。分野別売上高計画は次頁表の通り。15年3月期はゲーム分野の売上を見込んでおらず、ネットワーク分野とサービスプラットフォーム関連が主力となる計画となっている。

分野別売上高計画

(単位:百万円)

	13/3期会社計画	14/3期会社計画	15/3期会社計画
ゲーム	150	50	-
ネットワーク	470	600	750
データベース	180	220	250
高速起動	150	250	350
サービスプラットフォーム	50	200	650
合計	1,000	1,320	2,000
サービスプラットフォームの内訳			
スマートエナジー・スマートハウス分野	50	150	300
その他領域	-	50	350

(会社資料よりモーニングスター作成)

スマートエナジー分野の取り組みなどが進展

このサービスプラットフォーム関連では、スマートエナジー・スマートハウス分野の取り組みが進展。エネルギーの見える化だけでなく、家電等の制御による効率的なエネルギー消費を図るシステムの構築が進められている。当社は現状では制御される機器向けのプロトコルなどを提供しているが、今後の取り組み次第では新たな収益も期待される。

また、その他の領域としてはヘルスケアサービスやライフログサービス、アグリカルチャ（農業）サービスなどを例として挙げているが、様々な機器から無線を通じてデータを収集・分析・表示するといったニーズは、多様な業種・業態で発生する可能性がある。当社の保有する技術は様々なサービスで応用が可能であり、今後の動向に注目したい。

パートナー企業と資本提携

また、8月にはソーシャルメディアサービスの開発・運営を行っている株式会社 Miew の第三者割当増資を引き受けた。同社には、これまでもパートナー企業として開発の一部を委託してきたが、サービスプラットフォーム上のサービス開発・展開を睨んで資本提携による関係強化を図った。例えば、クラウドサービス「Navi-Ene」などにおいて、サービスの利用促進を図るため、同社の持つソーシャルメディアサービスのノウハウを活用したい考えだ。なお、当社の中期的な成長を考えた場合、人員の確保は一つの課題だったが、この面からも、この資本提携はポジティブに捉えておきたい。

ユビキタス [3858/JQ] 週足 2012/10/03



(出所) 株QUICK

上記チャート図の一部又は全部を、方法の如何を問わず、また、有償・無償に関わらず第三者に配布してはいけません。
 上記チャート図に過誤等がある場合でも株QUICK 社及び大阪証券取引所は一切責任を負いません。
 上記チャート図の複製、改変、第三者への再配布を一切行ってはいけません。

			2010/03	2011/03	2012/03	2013/03 予 (アナリスト)
株 価 推 移	株価 (年間高値)	円	310,000	394,000	214,400	-
	株価 (年間安値)	円	30,150	110,100	63,100	-
	月間平均出来高	株	37,157	108,418	33,793	-
業 績 推 移	売 上 高	百万円	1,159	1,422	915	1,000
	営 業 利 益	百万円	463	653	63	100
	経 常 利 益	百万円	470	653	64	100
	当 期 純 利 益	百万円	183	382	-18	60
	E P S	円	2,195.18	4,505.16	-217.68	704.07
	R O E	%	10.7	19.1	-0.9	2.8
貸 借 対 照 表 主 要 項 目	流 動 資 産 合 計	百万円	1,417	2,249	1,600	-
	固 定 資 産 合 計	百万円	657	340	718	-
	資 産 合 計	百万円	2,074	2,590	2,319	-
	流 動 負 債 合 計	百万円	287	350	152	-
	固 定 負 債 合 計	百万円	0	8	24	-
	負 債 合 計	百万円	287	358	176	-
	株 主 資 本 合 計	百万円	1,781	2,221	2,129	-
	純 資 産 合 計	百万円	1,787	2,232	2,142	-
キャッシュフ ロー計算書 主 要 項 目	営業活動によるCF	百万円	469	457	-49	-
	投資活動によるCF	百万円	-430	558	-393	-
	財務活動によるCF	百万円	-60	57	-76	-
	現金及び現金同等 物の期末残高	百万円	418	1,492	972	-

ディスクレーマー

1. 本レポートは、株式会社大阪証券取引所（以下「大証」といいます。）が実施する「JASDAQアナリストレポート・プラットフォーム」を利用して作成されたものであり、大証が作成したものではありません。
2. 本レポートは、本レポートの対象となる企業が、その作成費用を支払うことを約束することにより作成されたものであり、その作成費用は、当該企業が大証に支払った金額に大証からの助成金を加えたうえでモーニングスター株式会社（以下「レポート作成会社」といいます。）に支払われています。
3. 本レポートは、大証によるレビューや承認を受けておりません（ただし、大証が文面上から明らかに誤りがある場合や適当でない場合にレポート作成会社に対して指摘を行うことを妨げるものではありません）。
4. レポート作成会社及び担当アナリストには、この資料に記載された企業との間に本レポートに表示される重大な利益相反以外の重大な利益相反の関係はありません。
5. 本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的として作成されたもので、有価証券の取引及びその他の取引の勧誘又は誘引を目的とするものではありません。有価証券の取引には、相場変動その他の要因により、損失が生じるおそれがあります。また、本レポートの対象となる企業は、投資の知識・経験、財産の状況及び投資目的が異なるすべての投資者の方々に、投資対象として、一律に適合するとは限りません。銘柄の選択、投資判断の最終決定は、投資者ご自身の判断でなされるようお願いいたします。
6. 本レポート作成にあたり、レポート作成会社は本レポートの対象となる企業との面会等を通じて、当該企業より情報提供を受けておりますが、本レポートに含まれる仮説や結論は当該企業によるものではなく、レポート作成会社の分析及び評価によるものです。また、本レポートの内容はすべて作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
7. 本レポートは、レポート作成会社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、大証及びレポート作成会社は、本レポートの記載内容が真実かつ正確であり、そのうちに重要な事項の記載が欠けていないことやこの資料に記載された企業の発行する有価証券の価値を保証又は承認するものではありません。本レポート及び本レポートに含まれる情報は、いかなる目的で使用される場合におきましても、投資者の判断と責任において使用されるべきものであり、本レポート及び本レポートに含まれる情報の使用による結果について、大証及びレポート作成会社は何ら責任を負うものではありません。
8. 本レポートの著作権は、レポート作成会社に帰属しますが、レポート作成会社は、本レポートの著作権を大証に独占的に利用許諾しております。そのため本レポートの情報について、大証の承諾を得ずに複製、販売、使用、公表及び配布を行うことは法律で禁じられています。

<指標の説明について>

本レポートに記載の指標に関する説明は、大阪証券取引所ウェブサイトに掲載されております。

参照 URL ⇒ <http://www.ose.or.jp/jasdaq/5578>